

 **asahi スーパーママチャリGP**

第12回ママチャリ日本グランプリ チーム対抗7時間耐久ママチャリ世界選手権 開催結果

富士スピードウェイでは、1月12日(土)に、「あさひスーパーママチャリGP 第12回 ママチャリ日本グランプリ チーム対抗7時間耐久ママチャリ世界選手権」が行われ、851台、17,900人が参加しました。

● 全851台が一斉にスタート！優勝者は50周を周回！

ママチャリグランプリは、FIA 世界耐久選手権(WEC)やSUPER GTなど自動車レースの舞台となるレーシングコースを使い、1台のママチャリを最大10名のチーム内で交代しながら7時間を走りぬく、正月恒例となった自転車イベントです。

優勝は、「キクミモーターズ モキユ」が50周(約228.15km)を走破し優勝しました。

● 参加者は、着ぐるみなどいろんなスタイルでレーシングコースを走行！ 場内でも様々なイベントを実施！

競技中は、優勝を狙って上位進出を目指す本格派チーム、親子で伴走するチーム、自転車への装飾として、イノシシや戦艦、アニメキャラクターを制作して走るチームなど、各チームがそれぞれのスタイルで走行していました。

ピットガレージには、サイクルベースあさひによる修理、点検、整備用の「ママチャリGP PIT」が開設され、多くの参加者にご利用いただいたほか、パドックエリアでは、サイクルベースあさひブースでのフォトブース、GS ジャパンによる最新自転車の展示、lovell ブースではバッグやイベント限定品などの販売などが行われました。

● 大会前夜、レーシングコースを散策する「ナイトウォーク」を実施！

大会前夜21:30からは、レーシングコースにて「ナイトウォーク」が行われ、参加者が周囲を照らすライトや光るスティックなどを身に付け、夜のコースを散策しました。

また、パドックエリアでは、チームでテントを張りBBQを行うなど、和気あいあいと競技前夜の一時を思い思いに楽しんでいました。

● 大会終了後、スーパーフォーミュラ「KONDO RACING」のマシンがレーシングコースを疾走！

大会終了後には、昨年のスーパーフォーミュラチャンピオンチーム「KONDO RACING」により、今シーズンの開幕戦から導入される新車SF19 に山下健太選手、昨シーズンまで使用したレース車両のSF14 に国本雄資選手が乗り、新旧2台揃ってのデモンランが行われました。



スタート直後の様子



コース内を走る参加者の方々

以上

【インフォメーションに関するお問い合わせ】営業部 広報・マーケティング課

TEL:0550-78-1235(本社)/03-3556-8511(東京営業所) E-mail:press@fujispeedway.co.jp